令和8年度 第2回 真菅北小学校学校運営協議会会議録

1 活動実績

会場 開催日時	出席者
真菅北小学校 会議室 9 月 30 日（水） 10 時～11時 30分	本塚芳男　赤堀剛彦　　田中佑美子　堀川弥和 森本九永子　甲元美恵子　松本文美子 （片岡指導主事）　　合計 7 名

議題及び主な意見
案件①あいさつ 本塚会長より
案件②学校運営に関する協議 ・「全国学力学習状況調査」の結果データに基づいた児童の実態や今後の取り組みについて報告。
案件③熟議「人と人とのつながり～あいさつを通して大人も子どもも一緒に地域でつながる～」 それぞれの立場から見た児童の様子を交流 ・6年生だけでなく5年生も責任感をもって登下校している。子どもの成長がみられる。どれだけ大人がその姿に気付いているか。 ・あいさつは受け身傾向。自分から主体的に考えて行動できるよう、人のために活躍できるような場を与えていくことが大切。 ・車通りの多い道では、上級生が下学年の児童を最後まで待って渡らせている。そのような力が培われていることを感じる。 ・小さな声でも視線を合わせて応えようとしている。 ・思いやりの心が日頃の生活の中で培われてきている。そのような力は、いざという時に発揮できるものである。 ・外部から子どもたちの姿を見ていていいなと思う。 ・先生方の指導の賜物であると感じる。 （その他） ・読み、書き、そろばんの大切さ。活字に慣れることが必要。 ・読書のすすめ。発想が豊かになり思考力が育つ。 ・放課後の過ごし方について気になる点（コンビニへの立ち寄り、ザリガニ釣り） ・こども食堂では自分から話しかけてくれる子が増えている。廃材を使って共同で一つの作品を作ったり、上級生が小さな子どもの面倒を見たり、自分たちで助け合って活動する姿が見られる。 ・読書の機会が少ない…地域の中で読書ができる場づくりを検討中。 ・基礎学力の定着は親も関わらないと難しいが、実際は宿題に関われる親が少ないのではないか。子どもがどこでつまずいているか、なかなか家庭で把握できる環境ではない。 ・子どもは親、大人、上級生の姿を見ている。自発的に行動できるような場や支えが必要である。 〇信じて待つ　×放任

案件④ボランティア登録状況

・自治会回覧により新規登録があった件数…7件

・下校時の見守りが手薄である

→長続きさせるためには責任感を感じすぎず、ゆるく、息長く、子どもたちの姿を見てもらう。
児童の下校時刻を伝えておき、家の窓から見たり買い物の時間を合わせたりするなど、無理なく協力してもらえる方法もある。

案件⑤その他

・近畿特別活動研究協議会への参加案内　11/20（金）本校にて開催

・次回 12/3（木）13:00～